

時又港

(飯田市時又)



川の道にぎわい今は昔

天竜川はかつて、物資を輸送する舟運が盛んだった。江戸時代に始まった舟運は、明治の終わりから昭和初期にかけて最盛期を迎え、多くの舟が信州と太平洋を結ぶ「川の道」を往来。レジャーとしての舟下りも人気を呼んだ。今も残る時又港は、舟運の

と、天竜川は海外でも一躍有名になった。時又と中ノ島(現浜松市)間では、多くの定期客舟が運航。時又港を訪れる外国人の利用客も増え、近くには旅館や料理屋、カフェなどが軒を連ねた。しかし、昭和初期以降に天竜川で発電所のダム建設が続くと、航路を失った舟運は途絶えた。現在は舟下りの観光舟が、上流の弁天港と時又港間で運行するだけとなった。静かな時又港から、かつてのにぎわいを想像するのは難しい。それでも、川は昔も今も変わらずに流れ続ける。

(中山道雄)



〈23〉



と、天竜川は海外でも一躍有名になった。時又と中ノ島(現浜松市)間では、多くの定期客舟が運航。時又港を訪れる外国人の利用客も増え、近くには旅館や料理屋、カフェなどが軒を連ねた。